

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

「真実を聞こえたか？」と君は問う。

SHOSTAKOVICH 5

MON-23-AUG SUNTORY HALL

SEBASTIAN WEIGLE, Principal Conductor ISANG ENDERS, Cello

KABALEVSKY: "Colas Breugnon" Overture SHOSTAKOVICH: Cello Concerto No. 2 in G minor, op. 126

SHOSTAKOVICH: Symphony No. 5 in D minor, op. 47

YNSO Popular Series, No. 644 Monday, 23rd August, 2021 19:00 / Suntory Hall

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業） 独立行政法人日本芸術文化振興会 協力：アフラック生命保険株式会社

読売日本交響楽団 第644回 名曲シリーズ

カバレフスキー：歌劇〈コラ・ブルニョン〉序曲

ショスタコーヴィチ：チェロ協奏曲第2番 短調 作品126

ショスタコーヴィチ：交響曲第5番 二短調 作品47

揺るぎない不屈の精神、これぞ芸術家。

ヴァイグレが振る 衝撃のショスタコーヴィチ！

読響と充実した演奏を繰り広げる常任指揮者ヴァイグレが、20世紀ロシア音楽の3作品を取り上げる。東ドイツに生まれたヴァイグレにとってロシアの言語や文化は常に身近にあり、音楽への思い入れも強いという。今回は、ショスタコーヴィチが激動の時代に生み出した傑作交響曲を軸に、作風が異なる円熟期の協奏曲と、同時期に対照的な道を歩んだカバレフスキーの序曲を合わせた。

交響曲第5番は、波乱に満ちたショスタコーヴィチの生涯を体現する代表作。時代はスターリンの独裁体制下、芸術家は自由な創作を厳しく統制され、弾圧の対象にもなり得た。歌劇「ムツェンスク郡のマクベス夫人」が共産党中央機関紙から痛烈に批判されたことに作曲家は危機を感じ、わずか半年足らずで第5番を完成させる。緊迫した空気が漂う第1楽章から、輝かしい金管楽器と勇ましいティンパニによる圧倒的な終楽章に至る。苦悩から歓喜への明瞭な展開が熱狂を呼び、作曲家の名誉は回復した。しかし、作品に込められた真相は多くの謎に包まれている。一昨年、フランクフルト歌劇場で「ムツェンスク郡のマクベス夫人」を指揮して絶賛されたヴァイグレは、第5番でどんな表現を生むだろうか。劇的な音楽を緻密に練り上げながら内奥へと迫り、鮮烈なタクトで作曲家の魂を呼び覚ますはずだ。

前半のチェロ協奏曲第2番は、交響曲第5番から約30年後の作品。暗雲垂れ込むような不思議な雰囲気にも包まれており、ショスタコーヴィチ晩年の独特な世界が広がる。この「難曲」に挑むのは、類まれな才能を発揮するイサン・エンダース。弱冠20歳でドイツ名門楽団の首席チェロ奏者に就任して注目を浴び、現在ソリストとして活躍する若き本格派だ。ヴィヴィッドな感性で内省的な旋律と超絶技巧をたっぷり聴かせて会場を魅了するだろう。

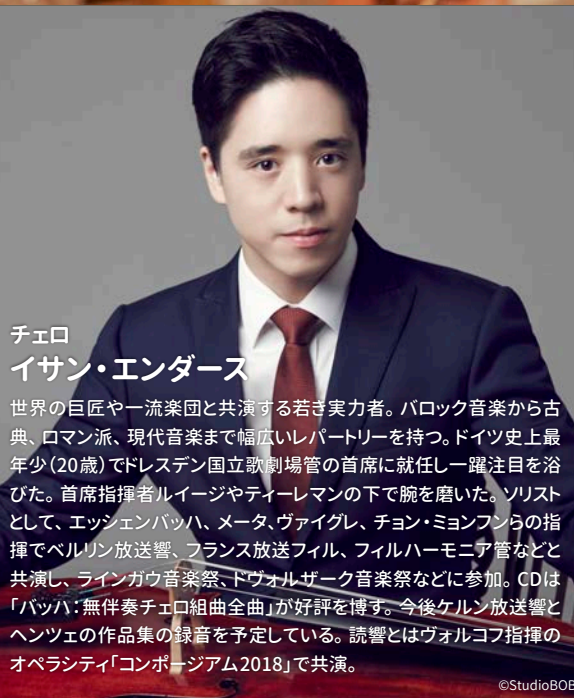
冒頭は、ロマン・ロランの小説を基にしたカバレフスキーの歌劇「コラ・ブルニョン」の序曲で幕を開ける。ショスタコーヴィチが体制との距離に苦心しながら創作を続ける一方、政府公認の作曲家として華やかな歌劇を生み出したカバレフスキー。時代を象徴する二人の音楽がヴァイグレの指揮で一つにつながり、新たな輝きを放つ。

常任指揮者

セバ스티アン・ヴァイグレ

2019年4月から読響第10代常任指揮者を務めるドイツの名匠。ベルリン生まれ。1982年からベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として活躍後、指揮者に転身。2003年にフランクフルト歌劇場でR.シュトラウス〈影のない女〉を振り、雑誌『オーパヴェルト』の「年間最優秀指揮者」に選ばれた。04年から09年までバルセロナのリセウ大劇場の音楽総監督を務め、08年からフランクフルト歌劇場音楽総監督の任にある。同歌劇場は『オーパヴェルト』の「年間最優秀オーケストラ」や「年間最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価されている。バイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン放送響、ウィーン響などで活躍している。

©読響



チェロ

イサン・エンダース

世界の巨匠や一流楽団と共演する若き実力者。バロック音楽から古典、ロマン派、現代音楽まで幅広いレパートリーを持つ。ドイツ史上最年少(20歳)でドレスデン国立歌劇場管の首席に就任し一躍注目を浴びた。首席指揮者ルイージヤティエレンの下で腕を磨いた。ソリストとして、エッセンパッハ、メータ、ヴァイグレ、チョン・ミョンフンの指揮でベルリン放送響、フランス放送フィル、フィルハーモニア管などと共演し、ラインガウ音楽祭、ドヴォルザーク音楽祭などに参加。CDは「パッハ：無伴奏チェロ組曲全曲」が好評を博す。今後ケルン放送響とヘンツェの作品集の録音を予定している。読響とはヴォルコフ指揮のオペラシティ「コンポージアム2018」で共演。

©StudioBOB

読売日本交響楽団 第644回 名曲シリーズ

2021年 8月23日(月) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C **SOLD OUT**

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017